

日刊工業新聞（2011年8月25日掲載「洗淨特集」に掲載致しました会長メッセージに加筆を行い、以下にご紹介致します。

## 地球環境と共生する産業洗淨

日本産業洗淨協議会

会長 松浦 功

現在の洗淨技術の主流は、適切な化学物質を洗淨剤として選定することを必要としており、モノづくりの現場で使用する化学物質の管理は、持続可能な開発を目指す国際的な環境問題の討議で主要なテーマとして取り上げられています。財団法人日本学術振興会は2008年度から5



ヵ年の計画で“東アジアにおけるモノづくりと環境のマネジメント”のプロジェクトを実施中ですが、当協議会では同プロジェクトに参加し、モノづくり現場における化学物質管理の重要性を訴えて参りました。

こうした中、当協議会は揮発性有機化合物（VOC）排出抑制を支援するため、長年検討して参りました「EVABAT」のシステム化を完成し、試験運用を開始することになりました。これは“経済的に実行可能な最良利用可能技術（Economically Viable Application of Best Available Technology）”の略であり、化学物質管理への自主的取組をうながすツールとして関心が集まっています。

当協議会は、来る8月31日より東京ビッグサイトで主催する「2011 地球環境保護 国際洗淨産業展」の会場でPCによるデモンストレーションを行い、来年の「2012洗淨総合展」ではその後の試験運用の成果をご紹介する予定です。なお、9月1日に開催致します「第15回 JICC 洗淨技術フォーラム 2011」の特別講演では、このEVABATシステムについて、当協議会の土井副会長よりご説明申し上げます。

本手法は、中小企業の洗淨現場における化学物質管理に大きく資するものと期待されており、さらには今後の途上国を含めた国際的な化学物質管理にも役立つことと確信しております。会場では本システムの運用についてご確認頂き、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。